

# ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0019 北海道千歳市流通3丁目4-1

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2025年1月16日発行【再刊第30号】

## 今号の話題

- 氷濤まつりに千歳市民無料招待  
最大5000人が入場可
- 水族館に干支ダイバー  
多彩企画で来場者楽しむ
- ノーススノーランドがオープン  
海外観光客など雪を楽しむ

千歳・支笏湖水濤まつり 2月1日から

開幕に向けて準備着々

氷像制作、順調に進む

「最高の氷で開幕を」

「千歳・支笏湖水濤まつり」氷の美術館・支笏湖ブルーの世界」が2月1日に支笏湖温泉を会場に開幕します。現在、主催する国立公園支笏湖運営協議会（事務局・観光連盟）の会場制作管理部が、急ピッチで作業を進めています。作業は順調に進んでおり、氷像を造る過程での降雪も少ないため、透き通った美しい支笏湖ブルーが際立った氷ができています。

制作作業は11月、骨組みの組み立てから始まりました。制作スタッフは鉄パイプや木材などを組み立て、そこに漁網や木の枝などを掛けます。散水作業が始まったのは気温が氷点下になる12月半ばです。ポンプでくみ上げた支笏湖の湖水をノズルで吹き付けます。網などに付着した湖水が凍り、少しずつ氷を太らせる作業です。スタッフ13人が24時間態勢で散水作業を行なっています。1月中旬は散水作業と同時に骨組みの抜き取



少しずつ完成に近づく会場内



13人のスタッフが作業に取り組んでいます

りや、余分な氷を手作業や重機で取り除く作業を並行しています。今年も会場には大小約30基の氷像が並びます。高さ13メートルのシンボルタワー「ブルータワー」がお目見えし、来場者を迎えるほか、これまで会場端だった展望台は中心に設けて、会場や支笏湖と周辺の山々を一望できるようにしました。高さ9メートル、全長40メートルの「アイスウォール」は迫力満点で、午前中に太陽光が透けると青の美しさが際立つスポットです。

松葉の緑の青々とした苔を表現した「苔の洞門」のほか、林立す

る氷柱が幻想的な風景を演出する「氷柱林」、きらびやかな「氷のシャンドリア」といった氷像の制作が進められています。

寒い中でも暖をとれるよう拡大した「アイスキッチン」ではスノープロを提供するほか、焚火でマッシュマロを焼いて食べる趣向もあります。毎年少しずつレイアウトを変えらるなど、工夫を凝らした会場が、昼間は独特の美しい「支笏湖ブルー」で、夜間は色とりどりにライトアップされた幻想的な表情で来場者をお迎えします。



24時間態勢でノズルで水を吹き付けて、氷を大きくしていきます

昨年のもつりは暖気の影響で、会期中でまつりを中止せざるをえませんでした。今年は昨今の気象状況も想定し、暖気が到来しても容易に氷像が崩れないよう、厚い氷をつくることを意識しての作業です。ポンプも昨年までの1台から2台に増強するなど、設備を強化して制作に取り組んでいます。

観光連盟の副会長、同協議会理事で、会場制作管理部の小林典幸部長は「手間暇をかけた分だけ氷像の価値が上がります。最高の状態の氷で開幕を迎えたいです」と力を込めます。

会期は2月24日まで。開場時間は午前10時から午後8時。ライトアップは午後4時半から。入場料は中学生以上1000円、小学生以下無料。期間中は、個人・団体双方に向けて、有料で地元ガイドによる解説付き観覧ツアーも実施します。



作業には重機も用いるなど大掛かりです

期間中は新千歳空港やJR千歳駅から、予約制で有料シャトルバスを初めて運行します。

まつりは1979年1月に初回を迎え、今回で46回を数えます。冬の観光イベントがなかった支笏湖地域に氷のまつりを生み、通年で観光客を呼ぼうと地域の住民が中心になって会場制作を担ってきました。製作技法はスタッフに代々受け継がれてきたもので、会場にお越し頂き、氷の美しさとともに制作の技術もご観覧ください。

## 氷濤まつり

### 千歳市民を無料招待

#### 入場券配布中

国立公園支笏湖運営協議会は氷濤まつり会期前日の1月31日を千歳市民デーとして、最大5000人の市民を会場に無料招待します。多くの市民に足を運んでもらい、まつりと支笏湖の魅力を知ってもらおう企画です。

31日午前10時～午後8時に公開します。同4時半からはライトアップを開始。会場に入るには市民入場券が必要で、千歳市役所観光課、市支笏湖支所、千歳観光連盟支笏湖支所、千歳観光案内所（JR千歳駅内）で配布しています。計1000枚を用意し、1枚で5人までが入場できます。

千歳市内でも、氷濤まつりに足を運んだことのない方はたくさんいらっしゃると思います。これを機に、地域の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

## スノーランドin千歳オープン 雪のアクティビティが笑顔広がる



チューブスライダーを楽しむ来場者

ザ・ノースカントリーゴルフクラブの敷地内を会場とする「ノース・スノーランドin千歳」が12月末にオープンしました。まだ雪が少ないため一部で体験できないアトラクションがあるものの、訪れた地元住民や外国人観光客などが雪の遊びを楽しんでいます。

例年、ミニスノーモービルや四輪バギー、スノーラフティング、大雪原のバナナボートツアーが好評の雪を満喫する企画です。今年以降雪量の少なさからまだ実施できないアクティビティもありますが、チューブスライダーでは設けられた斜面を勢いよく滑り降りるのを楽しんだり、雪原を歩くスキーで満喫したりする来場者の姿も見られます。特に雪のない国・地域から訪れたインバウンドのはじけるような笑顔がいたるところで見られ、雪遊びのコーナーでは雪だるまを作って遊ぶ親子など、千歳での冬を楽しんでいます。

入場料は大人800円、子ども500円。千歳・支笏湖水濤まつりとも連動しており、まつり入場券を持参の方は1枚につき5人まで入場料が無料になります。別途、アトラクションごとにオプション料金があります。



干支ダイバーやサモン君と記念撮影

## 千歳水族館 多彩に新春企画 干支ダイバー登場、へび類の展示も

サケのふるさと千歳水族館で1月2日、恒例の干支ダイバーが支笏湖水槽に現れ、来館者と記念撮影を行いました。新年を来館者とともに祝う恒例企画です。今年の干支は「巳」。水槽にはへびの被り物を身に付けた職員がダイバーとなって登場。訪れた家族連れなどはダイ

バーや水族館の人気キャラ、サモン君とともに記念撮影。新年から子供たちの笑顔が館内に広がりました。

館内ではお正月らしく、鳥居が設けられ、シマへびやアオダイショウといった日本の固有種や、中国やベトナムに生息するライノラットスネークといったへびも展示し、巳年にちなんだ企画も注目を集めました。

職員が「昭和生まれ」の紅組、「平成生まれ」の白組の2チームに分かれてテーマに沿った水槽をつくり、来館者に投票してもらう「紅白魚合戦」も開催。テーマは「おめでたい水槽」。紅組は熱帯魚を泳がせた水槽にケイキやプレゼントボックスを配し、白組はダミーの真珠できらびやかさを演出。同日に発表された結果では、紅組が111票を獲得し、白組に63票差で優勝するなど、年始も多彩な企画で来館者を楽しませました。

歌声、パフォーマンスで

社会に貢献

## 年末カラオケ開催

趣向多様に会場盛り上げ

千歳年末チャリティーカラオケフェスティバルが12月22日、北ガス文化ホールで開かれました。千歳商工会議所と千歳圏人会が主催。市内の団体や行政、自衛隊等の関係者が出場し、ステージ上で自慢の喉やパフォーマンスで会場を沸かせました。

今年で6回目を迎える恒例イベント。出場者の参加費や入場料の益金は千歳市奨学基金に寄付しています。

ステージでは往年の名曲や最近の流行歌までを出場者が熱唱。情感を込めた本気の歌声や、替え歌を交えて会場の笑いを誘う狙いまま、それぞれの気持ちを込めて歌を披露しました。歌唱だけでなく、学ランなどのツツパリ姿や華麗な



出場者がそれぞれの歌とパフォーマンスを披露しました

ドレスなど、思い思いのパフォーマンスも繰り広げられ、大ホールに訪れた来場者を盛り上げました。

観光連盟会長の小田賢一も千歳商工会議所副会頭の立場で、また観光連盟監事である鈴木隆夫が商工会議所専務理事として、入口博美会長とともに三役5人で出場。あおい輝彦さんの「センチメンタルカーニバル」を披露しました。

## イベント情報

▼ノース・スノーランド in 千歳（2024年12月30日）、ザ・ノースカントリーゴルフクラブ（チューブスライダー、四輪バギー、ミニスノーモービル、スノーラフティング、歩くスキーといったアクティビティを楽しめます。入場料は大人800円、子ども500円。このほかアクティビティごとにオプション料金。

▼千歳支笏湖氷濤まつり（氷の美術館（2025年2月1日から同24日、支笏湖園地みなもパーク、旧第5駐車場）時間は午前10時から午後8時。ライトアップは午後4時半からです。今年も大小30基の氷像群が、昼間の支笏湖ブルー、夜間のライトアップされた景色で来場者を魅了します。入場料は、中学生以上1000円、小学生以下無料。

## 編集後記

氷濤まつりの会場に行く途中、支笏湖に向かう道路わきにこの季節になると、いつも安全に配りつつ、見上げるスポットがあります。千歳川に近い急傾斜地の上に生えた樹木の枝に、例年、オジロワシが翼を休めているからです。

越冬のため日本へと渡来するそう。産卵で遡上して力尽きたサケもいて、えさの豊富な上流域は格好の居場所なのでしょう。千歳の豊かな自然を実感できる場所です。

今年はワシの数が少ない印象です。野鳥の生態に詳しくない筆者にはたまたまなのか、理由があるのかわかりません。目にするだけで壮大な気分になれる、大空を悠々と飛ぶ姿を早く見たいものです。（ひ）